

<p>テーマ</p>	<p>公立夜間中学校において 学習理解及び学習意欲の向上を促す数学科学習指導法 ～授業のユニバーサルデザインと ARCS モデルを活用した実践を通して～</p>
<p>発表者 (所属)</p>	<p>安部 圭祐 (福岡市立 福岡きぼう中学校 教諭)</p>
<p>【発表概要】</p> <p>私が勤務する公立夜間中学校では、中学校を卒業したばかりの生徒から高齢の生徒まで年齢層が幅広く、授業に対するニーズも修学や日本語の読み書き能力習得、高校への進学など多様である。どの生徒も一様に学びたい、中学校の学習内容がわかるようになりたいという強い思いを持っており、授業中も非常に熱心に活動している。このような状況において、授業者として生徒の思いをくみ取り、誰もが意欲的に取り組み続け、内容を理解していけるような学習指導を展開したいと考えた。</p> <p>そこで本実践においては、教師の工夫としかけによって全員参加、全員理解を目指す授業のユニバーサルデザイン化と、生徒の学習意欲を心理学の面からデザインする ARCS モデルを活用することで、さらなる学習意欲の維持と向上を図った。</p> <p>2年生の第3章一次関数と第4章図形の調べ方の単元を対象とし、実践後、生徒にアンケートをとり効果を検証した。ユニバーサルデザインと ARCS モデルの2つのチェックシートを合わせた全50問中46問において、「とても当てはまる」「かなり当てはまる」と半数以上の生徒が答えており、それぞれの手立ての有効性を実証することができた。一方で、回答の割合を授業の出席率別に検討すると、手立てによっては差異が認められたり、生徒が狙い通りの効果を実感できていなかったりした。</p> <p>どちらの理論も、教科や活動内容に関わらず応用が可能であり汎用性の高いものであるが、細かな手立てや方略については授業者の指導力、引き出しの多さに依存するところであり、私自身の今後の研鑽次第によって有効性は幾段にも向上するものと思っている。</p>	